

阿智村事務事業評価シート

事務事業名	読書活動事業	担当者	教育委員会	図書館係
-------	--------	-----	-------	------

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	1. 個性を尊重し、心豊かな人生を送れる村／教育・文化の向上／社会教育の充実・社会教育の振興			
関連する主な計画等				
根拠法	社会教育法 公共図書館法			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 補助金交付	<input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他
事業の対象者	村民および来館者			
事業開始年	<input checked="" type="checkbox"/> 時期不明	事業の終期	<input checked="" type="checkbox"/> 終期末定	

②事務事業の計画(PPLAN)、取組(DO)

実施目的	読書を通じて人生を豊かにする。テレビ・ビデオなどの視聴時間が増える中で活字離れが進み、言葉の乱れや国語力の低下が懸念されており、家庭や図書館で読書をする機会を増やし、充実した人間形成を図る。					
具体的取組	子ども対象イベント60回 参加人数延べ600人(おはなし会・おたのしみ会・ブックスタート等) 施設訪問30回 延べ600人(村内デイサービス三か所・阿智温泉療護園・村内グループホーム等) 各種講座 72回 延べ720人(源氏物語読書会・児童文学読書会・発達を考える読書会・朗読講座) 学校訪問 36回(授業12回・朝読書24回) 広報活動(広報あち・恵那山・ちびっこ通信・小中学校や保育園への図書館便り配布・ケーブルテレビ等) 小中学校図書館担当者への支援 浪合図書室・清内路図書コーナーの整備支援					
実績・効果	平成26年度(図書室時)と比較すると、貸出冊数は106%・利用者人数は101%増であり、着実な利用増があった。学校や保育園を訪問しておはなし会やブックトーク等を行うことにより、今まで本に興味のなかった生徒が図書館に来るようになった。また、図書館だよりで紹介した本を借りに来る利用者も多かった。					
		貸出冊数(冊)	利用者人数 (人)			
			児童	学生	一般	計
	平成26年度	36,172	2,794	510	6,698	10,002
	平成27年度	38,237	3,104	533	7,246	10,883

歳出の内訳(千円)	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	報酬	5,442	図書購入費	4,000		
	賃金	787	講師謝礼	80		
	消耗品費	424	システム保守委託料	0		
	使用料	389	団体補助金等	109		
事業コスト	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実績額(千円)	11,888	29,864	11,231	13,356	13,356
	うち一般財源	11,888	29,864	11,204	13,356	13,356
	うち補助金					
	うち個人負担					
	従事職員(人)	正規職員				
	臨時職員	2	2	2	2	2

③評価(CHECK)

区分	個別判定	判定理由	総合判定	
必要性	住民のニーズは高いか	a	特に子ども・高齢者のニーズが高い	B
	手段、成果は妥当か	b	もっと質の高い本を読むように働きかけを考えたい	
	対象者の設定は妥当か	a	全村民・来館者を対象としている	
	村の関与は妥当か	a	村の未来を担う子どもたちの教育機関であることを考え、村の関与が望ましい	
有効性	期待された効果が得られたか	前年度比約100%と、安定した利用が定着している	B	
効率性	コストの削減に努めたか	a	イベント時の消耗品購入は最小限とした	A
	効率性を高める工夫はされたか	a	同じ本を浪合・清内路でも活用できるようにした	
公平性	受益者負担は適切か	イベント時の材料費は必要に応じて受講者から徴収した	A	
総合評価	A			

④改善(ACTION)

事業の方向性	継続・維持
課題	・小中学生の活字離れの増加 ・蔵書スペースの確保
今後の取り組み	読書離れを解消するために、さまざまなイベントや広報を行い、図書館の利用促進を図るとともに、質の高い本を手にとってもらえるような工夫をする。